

# 第52回全日本大学男子選手権大会

平成29年9月2日(土)～4日(月) 岡山県新見市 新見市憩いとふれあいの公園新見ピオーネ球場他



日ソ協記録委員 筒井 照雄

「ソフトボールのまち」としても知られ、これまで日本リーグや全日本大会を数多く開催してきた岡山県新見市・新見市憩いとふれあいの公園新見ピオーネ球場を主会場に、「第52回全日本大学男子選手権大会」が開催された。

大会は、今回従来の出場チーム数「32」に戻し(※前回は第51回の「記念大会」であったため、出場チーム数が40に拡大された)、熱戦が繰り広げられ、好天の下、岡山県協会はもちろんのこと、新見市協会の方々の周到な準備によって運営された。

開会式では、新見市の「まなび広場」に「いみ大ホール」において出場32チームの主将が壇上に校旗を掲げ、互いの健闘を誓い合うとともに、去る7月13日に急逝された全日本大学連盟会長・一谷宣宏氏のご冥福を祈り、黙祷が捧げられた。

試合に目を向けると、2回戦で中京学院大(岐阜)の比嘉竜哉投手が東海大(神奈川)を相手にノーヒット・ノーランを達成する等、一大学日本一をめざした好ゲームが数多く繰り広げられ、ベスト4には、2回戦で、昨年の覇者・環太平洋大(岡山)にも回二・一打勝ち(7-10)を取り、勢いに乗

る日本体育大(東京)をはじめ、昨年準優勝の国士舘大(東京)、初の頂点を狙う関西大(大阪)、城西大(埼玉)がそれぞれ進出。最終日、「頂点」をかけた戦いに臨んだ。

## 〈準決勝〉

日本体育大

0 0 0 0 1 1 0 2  
0 0 0 0 0 0 1 1

関西大

(日) ○メーンズ・豊本・小山一調  
(関) ●松田一黒木  
(一三) 廣野、三田(三)  
(一審) P今井 1 中島 2 大田 3 三宅  
(二審) 松田

両チーム無得点のまま迎えた5回表、日体大は一死から2番・廣野が右中間へ三塁打を打ち、チャンスメイク。続く3番・和田の二遊間を破る適時打で生還し、1点を先制すると、6回表にも7番・鈴木のレフト線への安打を足がかりに一死二・三塁と攻め立て、1番・櫻庭の内野ゴロの間に貴重な2点目を追加。

守っては、7回裏に1点を返されはしたものの、メーンズ、豊本、小山の3人の投手リレーで逃げ切り、2-1で接戦に勝利。8年ぶりの決勝へ駒を進めた。

《準決勝》

国士館大

0 0 1 2 2 0 2  
0 0 0 1 0 0 0  
1 7

城西大

(国) ○池田・中根―服部  
(城) ●宮原―飯田

一三河村、後藤、八角(三)

小泉(城)

(二三四三) (三)

一審 P 小川 一三三 二審 T 三森

(記) 武本

先手を取ったのは、「地力」で勝る国士館大。3回表、二死から1番・横山が四球で出塁し、すかさず盗塁を成功させると、2番・八角の右前安打で一気に本塁へ還り、1点を先制。流れをつかんだ国士館大は、4回表にも4番・河村、7番・後藤の2本のソロ本塁打、5回表にも2番・八角の2点本塁打、7回表にも2番・八角の「2打席連続」となるソロ本塁打等、「一発攻勢」で2点ずつ加点。着々とリードを広げて試合を決め、2年連続の決勝進出を決めた。

一方、城西大はエース・宮原を軸にチーム一丸となった戦いで初のベスト4進出を果たしたが、この準決勝では結果的に完敗。4回裏、二死から4

《決勝》

国士館大

0 1 1 0 0 0 2 4  
0 0 0 0 0 2 0 3 5

日本体育大

(国) ●池田―服部

(日) 小山・メイリス・〇墨本

一審 T 三上 二審 T 三上

(審) P 洲脇 一三宅 二大塔 三岡本

(記) 立花

「東京勢同士の対決」となった決勝は、2回表に国士館大が7番・後藤の中前適時打で1点を先制。3回表にも9番・中島の三塁線を破る二塁打を足がかりに2点目を奪い、このまま有利に試合を進めるかと思われた。

しかし、日体大も6回裏、ここまでノーヒットに抑え込まれていた国士館大・池田を攻め、3番・和田、代打・竹森の2本の適時打で同点。7回は互いに得点を挙げることができず、試合は2-2のまま延長タイブレーカーへもつれ込むこととなった。

迎えた8回表、国士館大は四球、バント安打で無死満塁とし、3番・西田

はピッチャーゴロに倒れ、ホームベース。二死二・三塁となったものの、4番・河村が「一気持ち」でセンターへはじき返し、二者生還。「一気」に2点を奪い、勝利をグッと引き寄せたかに見えた。

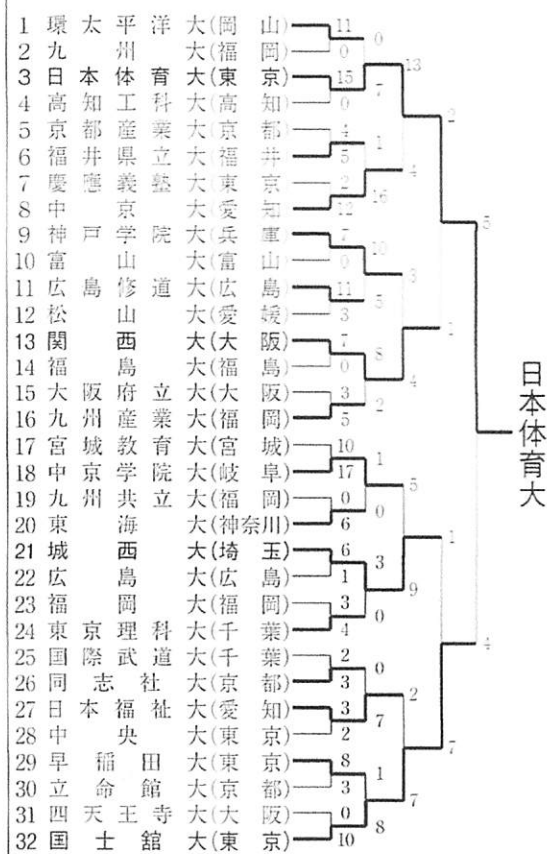
だが……「ドラマ」はこの後待っていた。粘る日体大はその裏、3番・和田が四球を選び、出塁。4番・池田のピッチャーゴロで走者がそれぞれ進塁し、「一死二・三塁」とすると、途中出場の5番・竹森が再び「勝負強さ」を見せて、試合を振り出しに戻す左越2点適時打。なお一死二塁のチャンスが続き、6番・小貫もしぶとく食らいついで二遊間を破り、二塁走者が一気に本塁生還。最後はまさに「劇的」な幕切れで、

日体大が5-4のサヨナラ勝ちを飾り、8年ぶり20度目の優勝を手にした。



日体大が国士館大との「死闘」を制し、王座奪還!

第52回全日本大学男子選手権大会



日本体育大